

# 調 査 票

番 号	18	所管府省名	文部科学省
-----	----	-------	-------

独立行政法人名 (HPアドレス)	独立行政法人日本芸術文化振興会 ( <a href="http://www.ntj.jac.go.jp/">http://www.ntj.jac.go.jp/</a> )	特定・非特定 の別	非特定
---------------------	--	--------------	-----

## 1 組織名及び職員数等

	組 織 名	職員数(役員を除く)	
		常 勤	非常勤
移行前(発足時の前日)	特殊法人日本芸術文化振興会	309人	44人
	プロパー職員数	279人	44人
	所管官庁からの出向者数	28人	0人
	所管官庁以外の官庁からの出向者数	2人	0人
発足時 (平成15年10月1日現在)	独立行政法人日本芸術文化振興会	312人	2人
	旧組織からの移行者(プロパー職員)数	272人	2人
	所管官庁からの出向者数	27人	0人
	所管官庁以外の官庁からの出向者数	2人	0人
平成16年4月1日現在	同上	326人	0人
	旧組織からの移行者(プロパー職員)数	265人	0人
	所管官庁からの出向者数	19人	0人
	所管官庁以外の官庁からの出向者数	2人	0人
	移行後の採用者数	33人	0人
平成17年4月1日現在	同上	321人	0人
	旧組織からの移行者(プロパー職員)数	255人	0人
	所管官庁からの出向者数	18人	0人
	所管官庁以外の官庁からの出向者数	2人	0人
	移行後の採用者数	38人	0人
平成18年4月1日現在	同上	308人	0人
	旧組織からの移行者(プロパー職員)数	244人	0人
	所管官庁からの出向者数	14人	0人
	所管官庁以外の官庁からの出向者数	2人	0人
	移行後の採用者数	45人	0人
平成19年4月1日現在	同上	308人	0人
	旧組織からの移行者(プロパー職員)数	235人	0人
	所管官庁からの出向者数	13人	0人
	所管官庁以外の官庁からの出向者数	2人	0人
	移行後の採用者数	53人	0人
	その他(国立大学法人等からの出向)	5人	0人

## 2 指定職総数及び役員数等

	役員数等	
	常勤	非常勤
移行前(発足時の前日)	5人	3人
発足時(平成15年10月1日現在)	5人	1人
移行前において指定職・役員であった者の数	4人	0人
平成16年4月1日現在	5人	1人
移行前において指定職・役員であった者の数	4人	0人
平成17年4月1日現在	5人	1人
移行前において指定職・役員であった者の数	1人	0人
平成18年4月1日現在	5人	1人
移行前において指定職・役員であった者の数	1人	0人
平成19年4月1日現在	5人	1人
移行前において指定職・役員であった者の数	1人	0人

### 3 指定職・役員給与総額及び個人別給与年額

指定職・役員給与総額	
支給年度	報酬総額
移行前の最終1年間(平成14年度)	103,411千円
発足時(平成15年度:15年10月～16年3月)	39,380千円
平成16年度	83,205千円
平成17年度	81,693千円
平成18年度	81,410千円

指定職・役員個人別給与年額		
支給年度	役職名	報酬年額
移行前の最終1年間(平成14年度)	会長	2,740千円
	理事長	19,737千円
	理事	8,993千円(7月)
	理事	5,990千円(5月)
	理事	16,457千円
	理事	15,811千円
	理事	16,418千円
	理事(非常勤)	1,212千円
	監事	14,841千円
	監事(非常勤)	1,212千円
発足時(平成15年10月～16年3月)	理事長	9,398千円
	理事	7,888千円
	理事	7,841千円
	理事	7,818千円
	監事	5,851千円
	監事(非常勤)	584千円
平成16年度	理事長(～平成16年5月)	3,524千円(1月)
	理事長(平成16年5月～)	15,825千円(11月)
	理事(～平成17年1月)	13,472千円(9月)
	理事(平成17年1月～)	2,420千円(3月)
	理事	16,073千円
	理事	11,663千円(8月)
	理事	4,548千円(4月)
	監事	14,516千円
	監事(非常勤)	1,164千円
平成17年度	理事長	19,084千円
	理事	14,989千円
	理事	16,083千円
	理事	15,996千円
	監事	14,377千円

平成18年度	監事(非常勤)	1,164千円
	理事長	19,243千円
	理事	15,981千円
	理事	16,218千円
	理事	16,132千円
	監事	7,146千円(6月)
	監事	5,526千円(6月)
	監事(非常勤)	1,164千円
平成19年度(4月～9月までの6カ月分)	理事長	9,579千円
	理事	7,956千円
	理事	8,074千円
	理事	7,513千円
	監事	6,806千円
	監事(非常勤)	582千円

(注) 役員は、非常勤を含む

<b>4 役員氏名等</b>	<b>引き続き調査中</b>
<b>5 退職金支給総額等</b>	<b>引き続き調査中</b>
<b>6 独立行政法人評価委員</b>	<b>引き続き調査中</b>

## 14 中期計画の数値目標等

計画期間	第1期	平成15年10月～平成20年3月
中期計画に定められた数値目標一覧		
<p>業務運営の効率化に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・効率化係数による削減目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>一般管理費13%以上(平成14年度予算比較)</li> <li>事業費1%以上の効率化(每事業年度)</li> </ul> </li> <li>・総人件費改革による削減数の数値目標 <ul style="list-style-type: none"> <li>平成19年度までに概ね2%以上削減(平成17年度比較)</li> </ul> </li> </ul> <p>国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</p> <p>芸術文化活動に対する支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>助成金の交付申請書受理から交付決定までの期間(芸術文化振興基金):約60日以下</li> <li>ホームページ年間アクセス件数:約3万件以上</li> </ul> <p>伝統芸能の公開及び現代舞台芸術の公演</p> <p>(1) 伝統芸能の公開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌舞伎公演:年間7公演程度</li> <li>文楽公演:年間10公演程度</li> <li>舞踊公演:年間4公演程度</li> <li>邦楽公演:年間6公演程度</li> <li>雅楽公演:年間2公演程度</li> <li>声明公演:年間1公演程度</li> <li>民俗芸能公演:年間4公演程度</li> <li>大衆芸能公演:年間67公演程度</li> <li>能楽公演:年間50公演程度</li> <li>組踊等沖縄伝統芸能公演:年間30公演程度(平成16年度以降)</li> <li>特別企画公演:年間4公演程度</li> </ul> <p>(2) 現代舞台芸術の公演</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オペラ公演:年間15公演程度</li> <li>バレエ公演:年間6公演程度</li> <li>現代舞踊公演:年間4公演程度</li> <li>演劇公演:年間9公演程度</li> </ul> <p>伝統芸能の伝承者の養成及び現代舞台芸術の実演家その他の関係者の研修</p> <p>(1) 伝統芸能の伝承者の養成</p> <p>ア 養成分野・人数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌舞伎(俳優、音楽):中期目標の期間中に18名程度の研修修了</li> <li>大衆芸能(寄席囃子、太神楽):中期目標の期間中に8名程度の研修修了</li> <li>能楽(ワキ、狂言、囃子):中期目標の期間中に8名程度の研修修了</li> <li>文楽(大夫、三味線、人形):中期目標の期間中に6名程度の研修修了</li> </ul> <p>イ 既成者研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌舞伎俳優研修発表会:年2回程度</li> <li>歌舞伎音楽研修発表会:年1回程度</li> <li>能楽研修発表会:年3回程度</li> <li>文楽研修発表会:年1回程度</li> </ul> <p>(2) 現代舞台芸術の実演家等の研修</p> <p>ア 研修分野・人数</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オペラ:中期目標の期間中に25名程度の研修修了</li> <li>バレエ:中期目標の期間中に16名程度の研修修了</li> </ul> <p>イ 発表会等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オペラ:年3回程度</li> <li>バレエ:年2回程度</li> </ul>		

伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

(1) 伝統芸能に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

国立劇場本館資料展示室:年2回程度

演芸資料館資料展示室:年3回程度

能楽堂資料展示室:年4回程度

文楽劇場資料展示室:年5回程度

国立劇場おきなわ資料展示室:年4回程度(平成16年度以降)

(2) 現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用

新国立劇場舞台美術センター資料館:年2回程度

附帯する業務

(1) 教育普及事業の実施

中期目標の期間中毎年度平均で約5千人以上の参加者数

参加者に対しアンケートを行い回答者の70%以上からその事業が有意義であったと回答

(2) 広報活動の充実

ホームページへの情報の掲載に要する期間:7日以内

年間アクセス件数:約77万件以上

(3) 劇場利用者等へのサービスの向上

会員数:約3万5千人以上

	達成状況	評価結果
発足時(平成15年10月~16年3月)	(効率化)事業費 2.2%減 (基金)HPアクセス件数 20,236件 (公開)歌舞伎 5公演 (公開)文楽 5公演 (公開)舞踊 3公演 (公開)邦楽 3公演 (公開)雅楽 1公演 (公開)声明 1公演 (公開)民俗芸能 2公演 (公開)大衆芸能 33公演 (公開)能楽 25公演 (公開)組踊等 8公演 (公開)特別企画 1公演 (公演)オペラ 9公演 (公演)バレエ 4公演 (公演)現代舞踊 4公演 (公演)演劇 5公演 (養成)歌舞伎 7名修了 (養成)大衆芸能 2名修了 (養成)能楽 - (養成)文楽 2名修了 (養成)能楽発表会 2回 (研修)オペラ 5名修了 (研修)バレエ - (研修)オペラ発表会 3回 (研修)バレエ発表会 3回 (展示)本館 2回 (展示)演芸資料館 2回 (展示)能楽堂 3回 (展示)文楽劇場 2回 (展示)国立劇場おきなわ 1回 (展示)舞台美術センター 3回 (教育普及)講座参加者 3,154人 (教育普及)満足度 90% (広報)情報掲載必要期間 2.9日 (広報)HPアクセス件数 559,601件 (サービス)会員数 35,921人	(効率化)事業費の効率化については、達成目標である「1%」を大きく上回る「2.2%」の効率化を達成している。効率化等による質の低下は見られなかった。 (基金)ホームページ等による助成対象活動・助成金額・審査委員、審議経過等の公表などは、審査における客観性及び透明性を確保する手段として有効であると認められる。 (公開・公演)全般的に、企画意図に沿って制作・実施され、公演及びその他の事業ともに、成果があがったものと認められる。一部の公演については、入場者数が目標に達しなかったものもあるが、定量的な要素より、企画の創造性・先駆性という定性的な要素を重視する視点も、芸術文化事業においては、肝要であろう。 (養成・研修)伝統芸能の伝承者の養成、現代舞台芸術の実演家の研修ともに、事業目的に沿った成果があがっていると認められる。 (調査研究・資料収集)伝統芸能及び現代舞台芸術に関する調査研究の実施並びに資料の収集及び活用については、事業目的に沿った成果があがっているものと認められる。 (教育普及)25の講座等を実施し、延べ約3千人の参加者を得ている。また、参加者の満足度も90%となるなど成果をあげていると認められる。さらに、内容、講師の人選も妥当で、地道で着実な実績を上げている。 (広報)広報誌の刊行(4種・約20万部)、ホームページへのアクセス(約60万件)など事業目的に沿った成果をあげている。また、各種情報の決定からホームページへの掲載期間が大幅に短縮できたことも評価される。 (サービス)会員組織については、新たな層の開拓も含め増員について検討していくことが望まれる。

<p>平成16年度</p>	<p>(効率化)事業費 1.95%減  (基金)交付決定期間 51日  (基金)HPアクセス件数 50,435件  (公開)歌舞伎 7公演  (公開)文楽 10公演  (公開)舞踊 4公演  (公開)邦楽 6公演  (公開)雅楽 2公演  (公開)声明 2公演  (公開)民俗芸能 4公演  (公開)大衆芸能 67公演  (公開)能楽 50公演  (公開)組踊等 30公演  (公開)特別企画 4公演  (公演)オペラ 16公演  (公演)バレエ 6公演  (公演)現代舞踊 4公演  (公演)演劇 11演  (養成)歌舞伎 -  (養成)大衆芸能 4名修了  (養成)能楽 3名修了  (養成)文楽 -  (発表会)歌舞伎俳優 2回  (発表会)歌舞伎音楽 1回  (発表会)能楽 3回  (発表会)文楽 1回  (研修)オペラ 5名修了  (研修)バレエ 8名修了  (発表会)オペラ 3回  (発表会)バレエ 3回  (展示)本館 4回  (展示)演芸資料館 4回  (展示)能楽堂 4回  (展示)文楽劇場 5回  (展示)国立劇場おきなわ 5回  (展示)舞台美術センター 4回  (教育普及)講座参加者 5,605人  (教育普及)満足度 88.4%  (広報)情報掲載必要期間 2.8日  (広報)HPアクセス件数 1,252,514件  (サービス)会員数 36,739人</p>	<p>(効率化)全般的に着実な成果が上がっているものと認められる事業費の効率化につき、目標「1%」を上回る「1.95%」をクリアしている。  (基金)助成金の交付手続きの短縮の成果や体制整備の方向性を高く評価する。  (公開)全般的に国立劇場の役割をふまえた企画意図に沿った公演の制作・実施等が行われ、効果が上がったものと認められる。公演の水準はすべて良好であり、演目については、国立劇場の特色がよく出ていた。社会人のための公演も評価したい。  (公演)全般的に、新国立劇場の役割をふまえた企画意図に沿った公演の制作・実施が行われ、概ね高水準の、国立の劇場ならではの公演であったと評価する。  (養成)日本唯一の機関として、国立劇場の役割をふまえた事業目的に沿って、着実な成果を上げているものと認められる。  (研修)他の研修機関に比べ、内容の充実が傑出している。新国立劇場の役割をふまえた事業目的に沿って、着実な成果が上がっているものと認められる。  (調査研究・資料収集)国立劇場の役割をふまえた事業目的に沿って、着実な成果が上がっているものと認められる。新国立劇場の役割をふまえた事業目的に沿って、着実な成果が上がっているが、まだ蓄積も浅くなお成果を注視したい。  (教育普及)国立劇場、新国立劇場の役割をふまえた事業目的に沿って、着実な成果が上がっているものと認められる。(広報)日本芸術文化振興会の事業目的に沿った着実  (広報)日本芸術文化振興会の事業目的に沿った着実な成果が上がっているものと認められる。  (サービス)劇場利用者等へのサービスは向上しており、日本芸術文化振興会の事業目的に沿った成果がより一層上がっているものと認められる。託児室の設置は画期的である。文楽、邦舞などの字幕表示については有効であると思う。</p>
---------------	--	---

<p>平成17年度</p>	<p>(効率化)事業費 1%減  (基金)交付決定期間 47.3日  (基金)HPアクセス件数 109,911件  (公開)歌舞伎 7公演  (公開)文楽 10公演  (公開)舞踊 5公演  (公開)邦楽 5公演  (公開)雅楽 2公演  (公開)声明 2公演  (公開)民俗芸能 3公演  (公開)大衆芸能 67公演  (公開)能楽 51公演  (公開)組踊等 30公演  (公開)特別企画 4公演  (公演)オペラ 14公演  (公演)バレエ 6公演  (公演)現代舞踊 4公演  (公演)演劇 10公演  (養成)歌舞伎 3名修了  (養成)大衆芸能 -  (養成)能楽 -  (養成)文楽 2名修了  (発表会)能楽 3回  (発表会)文楽 1回  (研修)オペラ 5名修了    (研修)バレエ -  (発表会)オペラ 3回  (発表会)バレエ 3回  (展示)本館 5回  (展示)演芸資料館 4回  (展示)能楽堂 4回  (展示)文楽劇場 5回  (展示)国立劇場おきなわ 4回  (展示)舞台美術センター 4回  (教育普及)講座参加者 6,066人  (教育普及)満足度 89.7%  (広報)情報掲載必要期間 1.8日  (広報)HPアクセス件数 1,866,816件  (サービス)会員数 38,501人</p>	<p>(効率化)全般的に着実な成果が上がっている。業務運営の効率化の努力がわかるとともに、「さくら祭り」など観客動員増を図る事業の実施もあり、理事長の主導のもと着実な成果が上がっていると認められる。  (基金)支援事業は審査及び公表等の情報提供を含め、円滑に進められている。申請受理から交付決定までの期間の短縮には格段の進展が見られる。  (公開)全般的に、国立劇場の役割をふまえた企画意図に沿った公演の制作実施等が行われ、効果が上がっている。演目に工夫があり、舞台水準も高かった。  (公演)全般的に、新国立劇場の役割をふまえた企画意図で演目もバラエティに富み、概ね国内の各シーンをリードする舞台を実現したことを評価する。特にバレエは観客を育ててきた成果も評価できる。  (養成)国立劇場の役割をふまえた事業目的に沿って、着実な成果が上がっている。現在の歌舞伎、文楽における研修修了者の数と役割の大きさを思うとき、この事業の重要性が理解される。  (研修)新国立劇場の役割をふまえた事業目的に沿って着実な成果が上がっている。オペラ及びバレエの研修はすでに高い成果を上げてい  る。多くの応募者があった演劇の研修についても今後の成果を注視したい。  (調査研究・資料収集)国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って、着実な成果が上がっている。上演資料集は内容が充実しており、研究者にも利用されている。古文献の復刻も国立劇場ならではの仕事で、高く評価出来る。新国立劇場の役割をふまえた事業目的に沿って、着実な成果が上がっている。主催公演を中心に資料の蒐集・整理もしている点を評価する。  (教育普及)国立劇場、新国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って、着実な成果が上がっている。参加者が目標数を大幅に超え、約90%が有意義であったとしていることを高く評価する。  (広報)日本芸術文化振興会の事業目的に沿った着実な成果が上がっているも。  (サービス)劇場利用者等へのサービスは各般にわたりきめ細かく飛躍的に向上しており、日本芸術文化振興会の事業目的達成に寄与している。</p>
---------------	--	--



<p>平成18年度</p>	<p>(効率化)事業費 1%減  (基金)交付決定期間 42.0日  (基金)HPアクセス件数 150,758件  (公開)歌舞伎 7公演  (公開)文楽 10公演  (公開)舞踊 5公演  (公開)邦楽 5公演  (公開)雅楽 2公演  (公開)声明 2公演  (公開)民俗芸能 3公演  (公開)大衆芸能 67公演  (公開)能楽 51公演  (公開)組踊等 30公演  (公開)特別企画 3公演  (公演)オペラ 12公演  (公演)バレエ 7公演  (公演)現代舞踊 4公演  (公演)演劇 10公演  (養成)歌舞伎 7名修了  (養成)大衆芸能 3名修了  (養成)能楽 -  (養成)文楽 -  (養成)組踊 -  (発表会)歌舞伎俳優 2回  (発表会)歌舞伎音楽 1回  (発表会)能楽 3回  (発表会)文楽 2回  (研修)オペラ 5名修了  (研修)バレエ 8名修了    (研修)演劇 -  (発表会)オペラ 3回  (発表会)バレエ 3回  (展示)本館 5回  (展示)演芸資料館 4回  (展示)能楽堂 4回  (展示)文楽劇場 5回  (展示)国立劇場おきなわ 4回  (展示)舞台美術センター 4回  (教育普及)講座参加者 6,632人  (教育普及)満足度 87.4%  (広報)情報掲載必要期間 1.9日  (広報)HPアクセス件数 2,360,581件  (サービス)会員数 39,152人</p>	<p>(効率化)全体に事務の効率化の努力は評価できる。随意契約の見直しについても、平成19年4月より会計規程を改正することし、着実に進展しているものと考えられる。  (基金)支援事業は、審査及び公表等の情報提供を含め、円滑に進められているものと認められる。申請受理から交付決定までの期間の短縮には、更に一層の進展が見られる。  (公開)一般的に国立劇場の役割を踏まえて企画意図に沿った公演の制作実施等が行われ、効果が上がっている。また、演目に工夫があり、舞台水準も高く、国立劇場40周年記念行事を中心に空前の活況を呈したと評価できる。  (公演)一般的に、新国立劇場の役割を踏まえた企画意図に沿って公演の制作・実施が行われ、効果があがったものと認められる。  (養成)国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って、成果があがっているものと認められる。文楽については、2名の研修生のいずれもが辞退するという残念な結果になったが、長期的な展望に立って今後とも事業を継続していくことが重要である。  (研修)新国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って、着実な成果があがっているものと認められる。  (調査研究・資料収集活用)国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って、着実な成果があがっており、高く評価する。新国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って、一定の成果があがっているものと認められる。  (教育普及)国立劇場、新国立劇場の役割を踏まえた事業目的に沿って、着実に成果があがっているものと認められる。  (広報)事業目的に沿って、着実に成果があがっているものと認められる。  (サービス)劇場利用者へのサービスは、各般にわたり飛躍的に向上しており、日本芸術文化振興会の事業目的達成に一層寄与しているものと認められる。</p>
---------------	---	---

## 15 中期計画期間における特筆すべき研究あるいは業務の成果

(発足時)

国立劇場おきなわの開場

国の重要無形文化財「組踊」をはじめとする沖縄伝統芸能の保存振興を図るとともに、沖縄の地理的、歴史的な特性を活かし、伝統文化を通じたアジア・太平洋地域の交流の拠点となることを目的として、「国立劇場おきなわ」が平成16年1月沖縄県浦添市に開場した。1月23日の天皇皇后両陛下の行幸啓をはじめ、16年1月から3月まで8週に渡り開場記念公演を実施した。評価委員会においても「国の重要無形文化財である組踊をはじめ、特色ある地域文化の再発見・保護のため画期的である」と評価された。

「歌舞伎400年記念事業」の実施

歌舞伎発祥400年を記念して、その歴史を紹介する巡回展示会を実施した。15年7月から16年3月にかけて、金沢市、広島市、東京都、名古屋市の4カ所において、歌舞伎の資料、衣装、小道具等を展示し、のべ9万人の入場者を集め、歌舞伎の普及と振興に寄与した。評価委員会においても「歌舞伎400年記念事業の実施は関係団体との連携協力に基づく、これまでにない事業」と評価された。

(1年目)

「社会人のための歌舞伎入門」の実施

新たな観客層の拡充のため、開演時間を午後7時に設定し、本公演上演演目の一部に解説を付した入門公演として計5回実施し、勤労者世代を中心とした多数の入場者があり、評価委員会においても「好企画であり、拡大化が期待される」と評価された。

「国立劇場託児室」の開設

子育て世代への観劇機会の提供のため、歌舞伎及び文楽公演期間中、国立劇場本館敷地内に「国立劇場託児室」を開設した。メディアでも多く取り上げられ、大きな反響を呼ぶとともに、評価委員会においても「画期的」と評価された。

(2年目)

新国立劇場託児室・キッズルーム「ドレミ」の設置

16年度の「国立劇場託児室」の設置を受け、新国立劇場においても、子育て世代への鑑賞機会の提供のため劇場内に託児室を設置し、一般の関心を喚起するため公募により名称を決定した。評価委員会においても「託児室が新国立劇場にもいち早く設置されるなど、劇場利用者等へのサービスは各般にわたりきめ細かく飛躍的に向上しており、日本芸術文化振興会の事業目的達成に寄与している」と評価された。

(4年目)

国立劇場開場40周年記念事業

国立劇場の存在を広くアピールする絶好の機会として、18年9月から半年間にわたって記念事業を実施した。歌舞伎公演において、新歌舞伎の傑作でありながら一挙上演が一度も行われたことのない「元禄忠臣蔵」を3ヶ月かけて上演するなど意欲的な企画を実施し、観客からの支持を得て、記録的な集客を数えた。評価委員会からも、「演目に工夫があり、舞台水準も高く、国立劇場40周年記念行事を中心に空前の活況を呈した」と評価された。

能楽堂座席字幕装置の導入

能楽堂において、能楽に対する理解の促進を図り、若い観客層の誘導及び外国人等の利用環境の整備のため、能舞台の特殊な舞台構造を十分考慮した日本で初めてのパーソナル・タイプの字幕システムを導入し、原則としてすべての自主公演で字幕表示を実施した。評価委員会においても「高く評価できる」とされた。

## 16 平成18年度における支出の概要

引き続き調査中

## 17 行政組織から独立行政法人への再就職

引き続き調査中

## 18 独立行政法人から他の法人への再就職

引き続き調査中

## 19 出資法人一覧

引き続き調査中

## 20 平成18年度における売却資産等の概要

(1)有価証券 (2)固定資産

引き続き調査中